

第六次総合計画 施策評価シート(令和2年度)

4-③

施策

だれもが安心して利用できる救急・医療環境を整える

担当部局

保健福祉局, 消防局, 市民病院

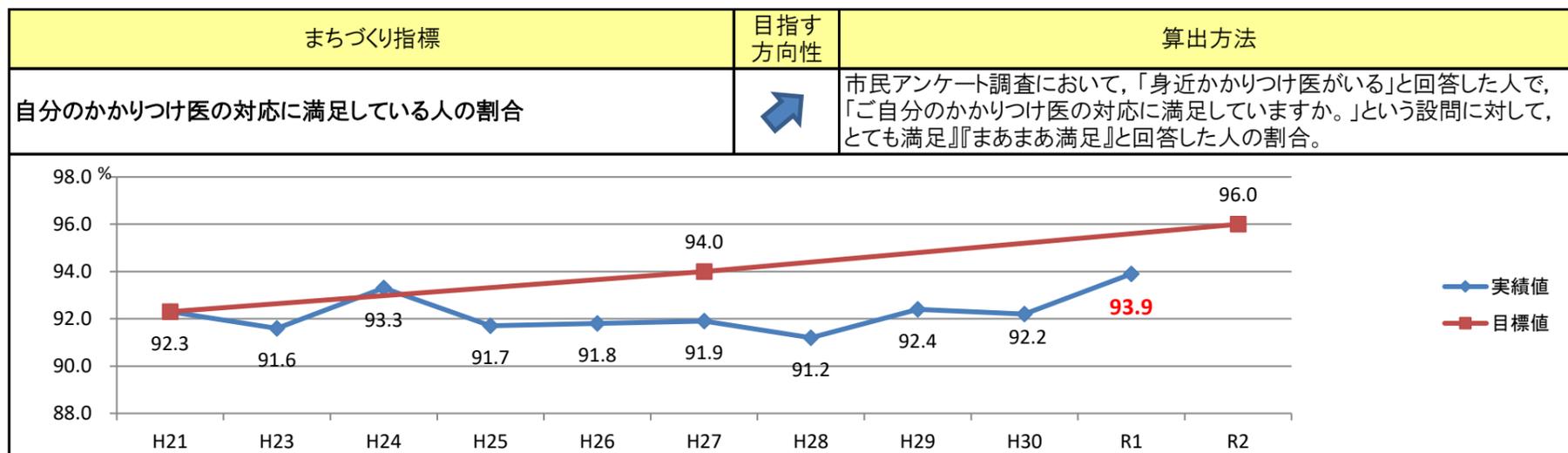
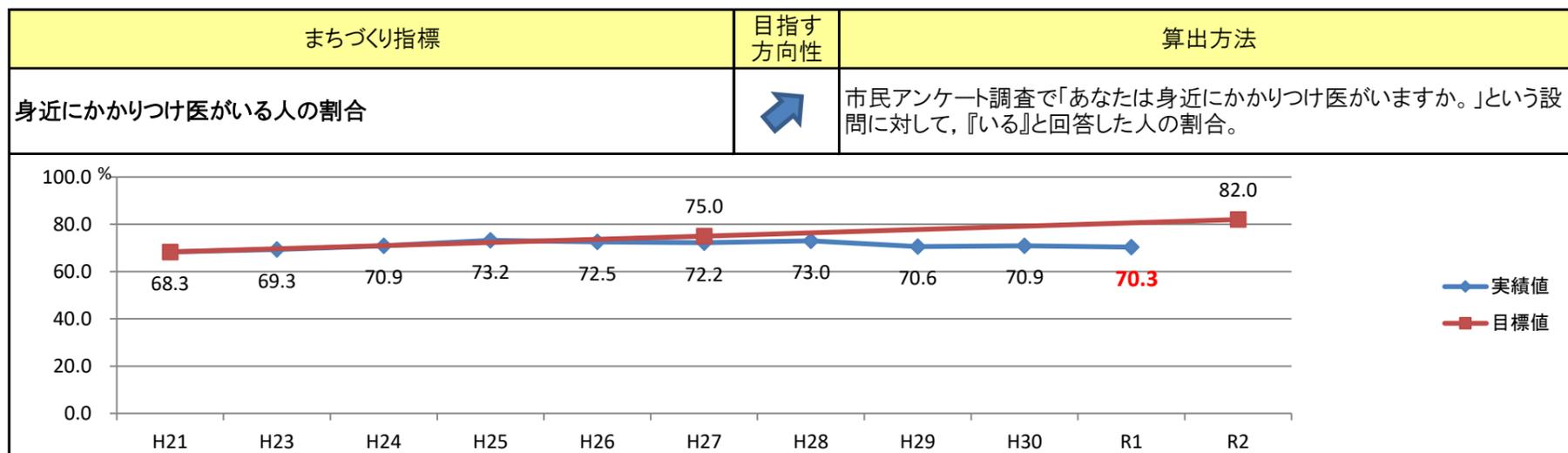


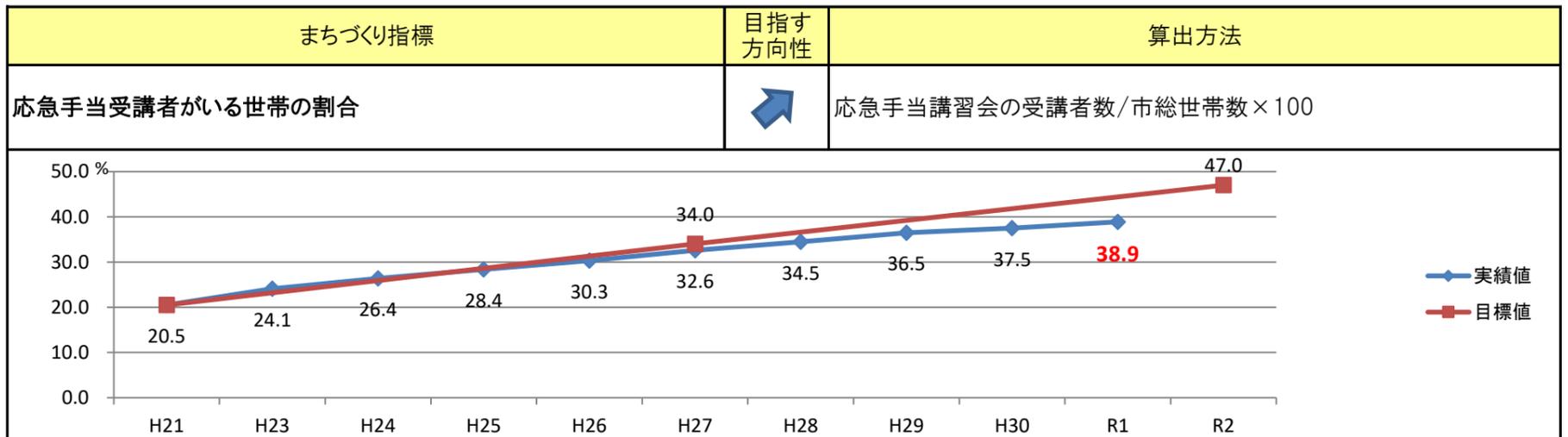
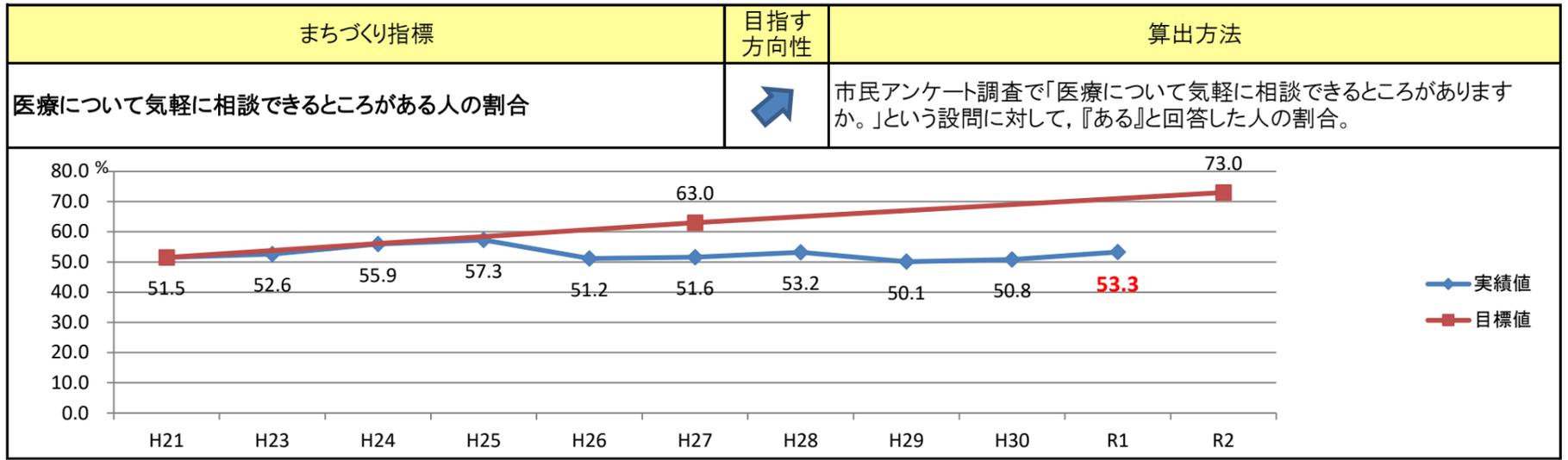
【安全・安心】めざすまちの姿 市内のどこに住んでいても、だれもが安心して、医療を受けている

市の基本方針

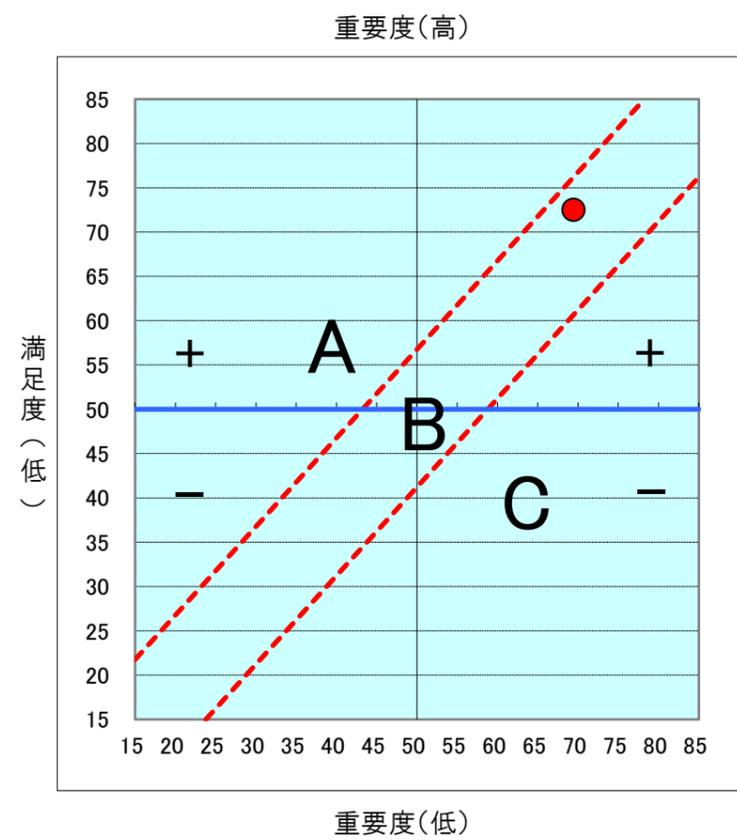
- 医師会など関係機関と連携をさらに強化し、初期救急患者の受入態勢など救急医療体制の確保・充実に一層努めるとともに、かかりつけ医制度の普及啓発を行い、救急医療機関の適正な利用について市民の理解が得られるよう努めます。また、倉敷市立市民病院においては、安全・安心な医療をめざし、地域の中核病院として医療体制を強化します。
- 新型インフルエンザなどの新型感染症や、大規模災害など緊急時に市民の健康被害が最小限に抑えられるよう健康危機管理体制の強化を図ります。
- 医薬品の正しい知識の普及啓発や相談業務など、生活衛生における安全・安心の確保に努めます。また、難病患者とその家族等への支援を行い、医療提供を受けながら在宅療養できる体制を充実します。
- 市民の救命率向上をめざし、病院到着前の高度な救命処置が受けられるよう、救急車をはじめとする救急資器材の高度化と、救急救命士の養成などによる救急隊員の資質向上を図るとともに、医療機関との連携を強化します。また、市民や事業者に対して、広報くらしき等で応急手当についての普及啓発を進めます。さらに、救急車の適正利用や夜間に受診する傾向への対策のため、かかりつけ医をもつことや、夜間受診のことも含めた病院のかかり方等について、広く情報提供を行います。
- 国民健康保険、高齢者の医療制度の啓発や、円滑な財政運営に努めるなど、必要な取組を進めます。

数値目標



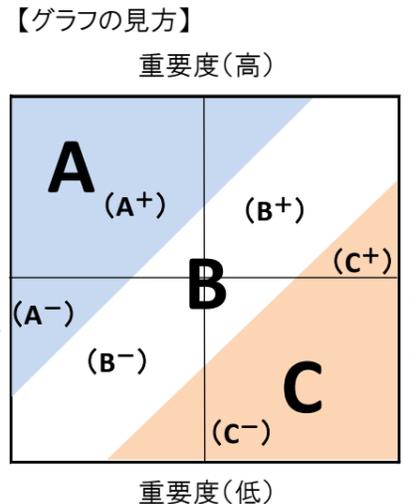


市民の重要度・満足度(R2.5アンケート調査結果)



領域	偏差値	
	重要度	満足度
B ⁺	72.51	69.44

- 重要度に見合った満足度が得られている(B)
- 重要度が平均値より高い(+)



A: 重要度に見合った満足度が得られていない領域
 B: 重要度に見合った満足度が得られている領域
 C: 重要度に見合う以上の満足度が得られている領域

※ 以上の3つの領域を、さらに2つに分割(3×2領域)
 +: 重要度が平均値より高い部分
 -: 重要度が平均値より低い部分

A⁺, A⁻, B⁺, B⁻, C⁺, C⁻

A⁺: 重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

施策を推進する主な事業の評価

区分	事業名	目的(Ⅰ)／令和元年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R1年度 決算額 (千円)
	休日夜間在宅当番医等運営事業	(Ⅰ) 市民の休日・夜間における初期救急医療の確保を目的として、各地区での診療を実施した。 (Ⅱ) 休日診療11,958人, 夜間診療774人, 休日歯科診療1,145人の診療を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	58,347
	病院群輪番制病院運営事業	(Ⅰ) 休日と夜間における重症救急患者の受入体制の確保を目的として実施した。 (Ⅱ) 病院群輪番制病院運営事業, 小児救急医療支援事業, 協力病院当番制病院運営事業を実施し, 医療体制を確保した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	49,028
	休日夜間急患センター運営事業	(Ⅰ) 市民の休日・夜間における初期救急医療の確保を目的として, 休日夜間急患センターでの診療を実施した。 (Ⅱ) 休日診療6,091人, 夜間診療4,474人の診療を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	84,318
公創	高梁川流域地域医療普及啓発事業	(Ⅰ) 医療の機能分化に対する知識を深め, 適切な地域医療環境の構築を図ることを目的として実施した。 (Ⅱ) 高梁川流域圏域において, 地域医療の普及啓発を行う団体に助成を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	400
	市民病院医療体制の充実	(Ⅰ) 市民病院において安定的な医療を将来にわたって提供することを目的に, 医師の増員や医療体制の充実を図るための事業である院内保育所の運営を行った。 (Ⅱ) 医師, 看護師, 管理栄養士等の利用があった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	6,666
重公創	市民病院繰出金(周産期医療)(再掲)	(Ⅰ) 地域の出産環境の向上を図るため, 常勤産婦人科医師複数体制に伴い, 平成28年10月から分娩の受入を再開した。 (Ⅱ) 「分娩件数 年間300件」を目標に, 113件を受け入れた。 (Ⅲ) 継続して実施する。	36,861
公	市民病院建替事業	(Ⅰ) 市民病院において安定的な医療を将来にわたって提供することを目的に建替事業を行った。 (Ⅱ) 解体・外構工事等すべての建設改良工事が完了し, 9月2日にフルオープンした。 (Ⅲ) 令和元年度で完了した。	188,240
	骨髄バンク推進事業	(Ⅰ) 白血病等の血液難病患者にとって有効な治療法である骨髄移植等に関する正しい知識の普及啓発を行うことで, 市民の骨髄移植に対する理解を深め, 骨髄バンク事業の推進を図る。また, 日本骨髄バンクが実施する骨髄バンク事業においてドナーとなった場合に, ドナーとドナーを雇用する事業者を対象に助成金を交付する。 (Ⅱ) 骨髄バンク推進月間における広報, ドナー登録会の実施, ドナーとドナーを雇用する事業者への助成9件を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	921
	地域健康危機管理体制推進事業(再掲)	(Ⅰ) 大規模災害時や新型インフルエンザ等の発生時に市民の健康被害を最小限に抑えることを目的に実施した。 (Ⅱ) 市内医療機関職員を対象に, 平成30年7月豪雨災害での経験を踏まえ, 減災をテーマに研修会を実施した。また, DHEAT研修参加者が, 保健所職員を対象とした災害時の訓練を企画し, 実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	707
	小児慢性特定疾病医療支援事業	(Ⅰ) 長期間にわたる治療が必要な小児慢性特定疾病について, その医療費を負担することにより患者家族の負担を軽減する。小児慢性特定疾病児手帳を交付し, 患児の健全育成と福祉の向上に役立てる。小児慢性特定疾病児童等の自立促進を図るため, 自立支援員を配置し, 相談支援事業などを行う。 (Ⅱ) 491人を認定し, 医療費の負担軽減に貢献した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	126,964
	指定難病医療支援事業	(Ⅰ) 国が指定した難病の医療費助成に係る各種申請・届出等の受付を行うとともに難病患者情報を円滑に収集して, 難病患者へのサービスの質の向上を図る。県からの委譲事務。 (Ⅱ) 4,168人を認定し, 患者および家族の医療費の負担軽減に貢献した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	9,123
	難病患者家族支援事業	(Ⅰ) 難病患者の療養上の不安の解消を図るとともに, きめ細かな支援が必要な患者に保健, 医療及び福祉の分野にわたる総合サービスを提供して, 安定的療養生活の確保とその家族の生活の質の向上に資する。 (Ⅱ) 訪問による個別相談や専門スタッフによる相談会の開催, 患者家族交流会の開催, さらに関係者の技術向上やネットワークのづくりのための研修会やケア会議を開催した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	983
	後期高齢者医療事業	(Ⅰ) 安定的な医療を確保し, 高齢者の福祉の増進を図ることを目的として実施した。 (Ⅱ) 75歳以上等の高齢者を対象とした後期高齢者医療制度に基づく医療等の保険給付を岡山県後期高齢者医療広域連合と連携して実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	6,302,914
	国民健康保険事業	(Ⅰ) 安定的な医療を確保し, 倉敷市の国民健康保険加入者の福祉の増進を図ることを目的に実施した。 (Ⅱ) 倉敷市の国民健康保険加入者に対して, 必要な保険給付と適正な賦課徴収を行った。特に保険料収納率向上と医療費の適正化に取り組み, 健全運営に努めた。前年度に比べ, 保険料収納率を0.35ポイントアップすることができた(現年度分:93.39%)。医療費の適正化については, ジェネリック医薬品の普及に向け, ジェネリック医薬品の差額通知を実施したほか, 特定健診受診率の向上に向け受診勧奨を行った。 (Ⅲ) 保険料収納率向上対策及び医療費の適正化施策を継続し, なお一層の健全経営に努める。	48,791,966

区分	事業名	目的(Ⅰ)／令和元年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	R1年度 決算額 (千円)
重 公 都 創	阿知3丁目東地区市街地再開発事業 (再掲) (地域医療施設整備)	(Ⅰ) 倉敷市中心市街地活性化基本計画の一環として、第一種市街地再開発事業により都市機能の更新及び土地の合理的かつ健全な高度利用をし、倉敷市の玄関口にふさわしいまちづくりを目指す。また、再開発事業で建設する施設建築物において、地域に必要な診療科を中心とした地域医療施設を整備し、まちなかへの居住や生活環境の向上を図る。 (Ⅱ) 再開発組合において、土地・建物の明渡し、既存建物の解体除却工事が完了し、建築物の新築工事に着手した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	2,795,067
	救急高度化推進整備事業	(Ⅰ) 救急体制の高度化と市民へ応急手当を普及させることを目的とする。 (Ⅱ) 救急救命士5人、薬剤投与認定救命士6人、気管挿管認定救命士4人、ビデオ硬性挿管用喉頭鏡認定救命士2人、指導救命士1人を養成。高規格救急車2台を更新した。また、応急手当の講習を204回、延べ4,166人に実施した。 (Ⅲ) 救急活動の質を底上げし、救命率を向上させるため、継続して実施する。	84,605